

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ



Vol.40

南極



世界の国々や地域を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」!

案内役は、国際交流員のアダム・ラビエールさんとジェニファー・ステイントンさんです。

Hi! アダムです。あなたは鶴田の冬が寒くて暗くて風が強いと思っていますか? 雪も氷も雪かきも全部嫌いですか? 窓の外に降る雪を眺めているだけでもイライラしたり気が滅入ったりしますか? これらの質問に「イエス」と答えたあなた、どうぞこれを読んでください。鶴田の冬もそんなに悪くないと思うようになりますよ!

今回は**南極**のお話です。南極は、南極大陸の中央に位置する地球上で最も寒い場所です。真夏は24時間太陽が顔を出し、平均気温は氷点下25℃。この夜が来ない夏の6か月後に冬がやってきます。冬の6か月間太陽は姿を消し、日中の平均気温はなんと氷点下約65℃です。南極では、記録に残っている最も暖かい日の気温でさえ氷点下14℃なのです。南極大陸は地球上で最も大きく、そして最も乾燥した砂漠でもあります。ここは、1年に積もる雪の高さは約1cmでありながら、3,000m以上の氷雪に覆われている大陸なのです。この



ようかなり寒く、そして孤立した地では雪は溶けません。そのため何百万年とかけて降り積もった雪が今日の高さにまでなったというわけです。

南極大陸にはその土地原産の**動植物**もなければ、その土地出身の原住民というのもなく存在しません。南極大陸の人口は夏が約4,000人で、冬ともなるとたったの1,000人です。しかもそのほとんどが、この遠く離れた基地で行う調査のために一時的に移り住んできた科学者たちばかりなのです。南極大陸にある基地の中で最も大きく、そして最も進んでいる基地といえば南極そのものに位置しているアムンゼン・スコット南極基地でしょう。この基地の科学者たちは、世界で最も極端なそして寒い気候の土地に居住しながら、地球を取り巻く大気、宇宙物理学など宇宙について勉強しているのです。

南極大陸の夏の終わり、**新たな科学者**、研究者の団がチャーター便で雪の基地へと到着します。冬が始まると、この隊員たちは約1年間この場所にいることになります。この隊員たち以外は誰も来る

ことはもちろん、行くこともできません。なぜなら天候が尋常ではありませんし、何しろ気温が低すぎるからです。約100人もの人々が、その場所で調査などの業務を遂行するなどして1年を過ごします。

その冬の間中、**隊員**たちは世界中のほかのどの場所からも完全に孤立することになります。暗闇の中に暮らし、毎日雪に覆われる生活をするのです。このような状況の中で生活していくために、隊員たちは室内で自分たちの食べ物を栽培し、雪や氷を溶かして新鮮な水を得ます。地下にある氷のトンネルは基地のほかの施設へとつながっているため、科学者たちは場所を移動する際、外に出なくてもいいというわけです。強風によって舞上げられた氷の上の雪は、基地を1日に1mずつ覆っていきます。そのため除雪の担当者は大きい除雪車を1日中、しかも毎日動かして、作業に追われることになります。さもなければ基地の中の人たちが生き埋めになってしまいます。ほとんどの科学者にとって、ひと冬が我慢の限界でしょう。このような極端な寒さの中で、そして極端に孤立した状況下において生活することは、ほとんどの人にとって困難なことであり、ストレスが溜まることでしょう。事実、ごく少数ですが精神に異常をきたす人もいます。



基地での1年が終わるころ、それは基地が再び世界とつながりをもつ時期です。南極を後にした人のほとんどがそこへは二度と戻りません。しかしながら、何人かの科学者たちが、極限の状況の中で生み出される自然や風土の美しさに心を奪われ、離れがたく思うのもまた事実なのです。